記者発表資料

来年度で直轄砂防事業に着手してから 80 年

平成 28 年 10 月 19 日
国土交通省東北地方整備局
新庄河川事務所
庄内町

庄内町の住民と岩手大が『まるごと里ごとハザードマップ』を作成

～土砂災害防止に向けた全国初の取り組み～

9 月 17 日（土）に実施した「まちあるき」の結果を基に、10 月 23 日（日）に危険箇所や避難場所等をまとめた現地情報図の作成を行います。更に、現地情報図を見ながら、避難時に注意すべき点やどのように避難するかについて、住民と岩手大学の学生等が議論を行います。（図上検討会）

地域の住民自らが危険箇所を確認し、土砂災害から身を守るための行動が速やかにとれることを目的に取り組むものです。

国立大学法人岩手大学では、「地域と協働した防災力向上に関する研究」（井良沢道也教授）を進めています。今回、同教授の研究室の学生自らが地域防災力向上に関して学ぶことも目的としています。

地域と官・学が連携し、「まるごと里ごとハザードマップ※1」を作成する全国で初めての取り組みになります。

記

■実施内容（図上検討会等）

日　　時 ： 平成 28 年 10 月 23 日（日） 9：00～11：00

集合場所 ： 和郷（わごう） 会館（木の沢（きのさわ） 地区）（山形県東田川郡庄内町 肝煎（きもいり））

■参加人員：庄内町木の沢地区町内会、岩手大学及び行政側　約 30 名程度

※1）国土交通省では、平成 18 年 7 月から生活空間である市街地に水災にかかる各種情報を洪水関連標識として表示する「まるごとまちごとハザードマップ」（下記参照）を推進しています。これを基に新庄河川事務所では、砂防版として「まるごと里ごとハザードマップ(仮称)」と呼び、避難誘導標識の他に手作りの避難経路図の作成に取り組んでいくものです。

（発表記者先）

山形県政記者クラブ、酒田記者クラブ、鶴岡記者会、新庄新聞放送記者会

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　新庄河川事務所

〒996-0071 新庄市小田島町 5－55　TEL 0233（22）0262（調査課直通）

副所長（砂防） 鴫原（しぎはら） 吉隆（よしたか）（内線 205）

調査課長 窪田（くぼた） 敏一（としかず）（内線 351）

庄内町役場

〒999-6601 東田川郡庄内町狩川字大釜 22　TEL 0234（56）3394

総務課　主幹（危機管理担当） 齋藤（さいとう） 渉（わたる）

＜参考＞「まるごと里ごとハザードマップ」（仮称）の取り組み

＜全体スケジュール＞

・平成28年　8月22日（月）　住民説明会（趣旨説明）
・平成28年　9月17日（土）　まちあるき
・平成28年10月23日（日）　現地情報図の作成と図上検討会（DIG）※2

＜イメージ　図上検討会の様子＞



※2）DIG（図上検討会）
DIG（ディグ *Disaster*（災害） *Imagination*（想像力） *Game*（ゲーム））とは、一般市民が独力でも企画・運営できる簡易型の防災図上訓練ノウハウです。
・地図を用いる。
・まち歩きでチェックした場所にシール、写真を貼り付ける。
・「避難時注意」などと書いたメモ用紙を貼り付ける。

＜参考＞庄内町の住民と岩手大がまちあるき※3を実施

庄内町と岩手大学、新庄河川事務所では、9月17 日（土）にまちあるきを行い、土砂災害警戒区域等の位置の確認や避難場所、避難経路を確認しました。（住民参加者数：18名）。


まちあるきの様子
（山形県庄内町木の沢地区）


岩手大学　井良沢教授の説明


岩手大学　生徒による危険箇所の説明


土砂災害警戒区域等の確認

※3）まちあるきとは

地域住民が実際に外に出て歩き、土砂災害警戒区域等の位置の確認や避難場所、避難経路、過去に災害のあった箇所を確認するものです。また、実際に現地を歩くことで、ハザードマップなどには書かれていない、住民が危険だと思う場所や、避難場所までの経路・避難時間などについて、地域住民が共通の認識を持つことにも繋がります。

＜まるごと里ごとハザードマップの作成イメージ＞

